

3月の県内景況は前月に比べやや悪化。卒入学シーズンであったことから一部の業種で景況が好転しつつも低調に推移。

情報連絡員による平成28年3月の県内中小企業の景況は、業界全体として「好況」は11.3%（前月比-4.0）となっており、「横這い」は41.5%（同+4.2）、「低調」とするところが47.2%（同-0.2）、業界全体の「景況感DI」は-35.8（同-3.6）となっています。

1. 全産業の項目別前年同月比DI値の動き

◇「資金繰り」「雇用人数」の項目が前月と比較して好転しています。

2. 業種別の「業界の景況」

◇前年同月と比較して、サービス業と建設業は「快晴」または「晴れ」、食料品製造業、鉄工機械製造業、卸売業、小売業は「曇り」または「薄曇」、その他の業種は「雨」となっています。

◇来月の見通しは、好転、やや好転の見込みとの回答が、11.3%（前月比-27.7）と減少しております（好転の回答0件、やや好転の回答6件）（製造業2、非製造業4）。また、変わらないが、66.0%（前月比+18.5）と増加しております。やや悪化、悪化の見込みは、22.7%（前月比+18.9）と増加しております。

平成28年3月の景況について、情報連絡員からの報告は以下のとおりです。（回収率90.0%）

項目別DI 業種区分	売上高		販売価格		収益状況		資金繰り		雇用人員		業界の景況	
	前月比	前年比	前月比	前年比								
食料品製造	50.00	-16.67	0.00	16.67	50.00	-16.67	-16.67	0.00	16.67	-16.67	16.67	-16.67
繊維製品製造	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	33.33	-33.33	0.00	-33.33	33.33	-33.33
木材製品製造	0.00	-75.00	-25.00	-25.00	-25.00	-75.00	-25.00	-25.00	0.00	-25.00	-25.00	-50.00
鉄工機械製造	75.00	75.00	0.00	0.00	25.00	25.00	0.00	0.00	0.00	-25.00	0.00	0.00
その他の製造	50.00	-50.00	16.67	33.33	33.33	-16.67	16.67	0.00	-16.67	0.00	0.00	-33.33
卸売業	0.00	-50.00	0.00	0.00	-50.00	-50.00	-25.00	-50.00	0.00	-25.00	-25.00	-25.00
小売業	55.56	-11.11	-11.11	0.00	22.22	0.00	-11.11	-22.22	-22.22	-44.44	-22.22	-11.11
商店街	33.33	16.67	16.67	0.00	16.67	-16.67	16.67	-33.33	0.00	-16.67	0.00	-50.00
サービス業	40.00	0.00	20.00	16.67	20.00	-16.67	0.00	0.00	20.00	16.67	20.00	16.67
建設業	0.00	-40.00	0.00	20.00	0.00	0.00	0.00	20.00	0.00	-20.00	0.00	20.00
運輸業	-50.00	-50.00	0.00	0.00	-50.00	-50.00	-50.00	-50.00	0.00	-50.00	-100.00	-50.00

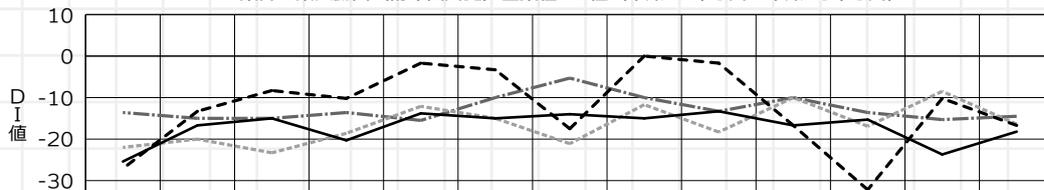
天気図の見方

各景況項目について「増加」（または「好転」）業種割合から「減少」（または「悪化」）業種割合を差し引いた値（D・I値）をもとに作成。その基準は下表のとおりである。

D・I値基準値

- 快晴 30以上
- はれ 10~30未満
- うすぐもり -10~10未満
- くもり -30~-10未満
- 雨 -50~-30未満
- 大雨 -50未満

業界の景気動向（前年同月比）全業種DI値（平成27年3月～平成28年3月）



— 業界の景況
 - - - 売上高
 収益状況
 - · - 資金繰り

	平成27年3月	平成27年4月	平成27年5月	平成27年6月	平成27年7月	平成27年8月	平成27年9月	平成27年10月	平成27年11月	平成27年12月	平成28年1月	平成28年2月	平成28年3月
業界の景況	-25.4	-16.7	-15.0	-20.3	-13.8	-15.0	-14.0	-15.0	-13.3	-16.7	-15.3	-23.7	-18.2
売上高	-27.1	-13.3	-8.3	-10.2	-1.7	-3.3	-17.5	0.0	-1.7	-16.7	-32.2	-10.2	-16.7
収益状況	-22.0	-20.0	-23.3	-18.6	-12.1	-15.0	-21.1	-11.7	-18.3	-10.0	-16.9	-8.5	-16.4
資金繰り	-13.6	-15.0	-15.0	-13.6	-15.5	-10.0	-5.3	-10.0	-13.3	-10.0	-13.6	-15.3	-14.5

食料品製造業

<漬物>

厳しい状況が続いている。円が高くなり少しだが原料の仕入れが安くなる環境になってきた。どの位、円高が続くかわからないが期待している。

<味噌醤油>

味噌醤油の出荷量は先月と比較し僅かな増加は見られるも、昨年より減少している状況。味噌の主原料の大豆については、依然として高騰が続いており、米についても特定のものは数量が不足し、高値であることから思うように手に入らならない状況。風評の影響で売上げは伸びず、賠償においても思うように進まず、県産原料の使用状況を問われる企業が少なくない。

<菓子>

3月の繁忙期が過ぎたが、前年割れの状況は変わっていない。現体制のままでは組合の維持が難しくなっているのが数字に表れており、今後の方針を決めなければならない時期に来ている。

<乾麺>

小麦の政府売渡価格の発表があり、4月よりハード、ソフト系の引き下げとなる。これは、小麦の国際相場と供給が安定し、燃料の価格下落等により海上運賃が低迷したこと等が影響し価格が引き下げとなった。

<酒造>

前月同様、吟醸酒、純米吟醸酒を中心に販売を伸ばしている。新酒の仕込みもほぼ終了した。今年のお酒の出来は、原料米が溶けやすく、また、仕込み時期が温暖で厳しい状況だったが、昨年並みの出来である。

<食品団地>

原油価格は大きな変動もなく、生産量も例年に近い状況である。消費は変わらず停滞しており厳しい状況である。短期雇用においても充足は厳しいため生産調整や社員対応等で補っている。

縫製品・同製品製造業

<ニット>

先月より秋冬物の先行受注があり期待したが、売上げに結びつかなかった。

<繊維>

昨年末からの冬物衣料販売不振により各メーカーが冬物在庫に苦しんでおり、昨年同期より発注が遅れ、ロット数も減少傾向にある。

木材・木製品製造業

<製材業>

県内の復興住宅・リフォーム需要は一巡したとの見方から先行きを見通せないため、国産材製品の荷動きは3月に入って一層鈍化している。不要期とはいえ、例年以上の悪さとの声もある。一方、丸太の出材は順調であるが、買い手側が慎重となっていることから丸太価格は下落傾向にある。

<外材輸入>

年初よりも為替円高推移により、米材製材大手が値下げに動くなど荷動きは低調、価格も弱含みの状況下にある。

印刷業

<印刷>

年度末のかき入れ時としては、業況がまだ模様で年度末の力強さが感じられなかった。

窯業・土石製品製造業

<陶磁器>

同じ建屋の中のレストランが移転のため、今後の焼物販売所への入館者数が減少気味の予測がされる。

<碎石>

(県北地区)

1. 当月売上数量 前月比 約10%減
2. 当月売上数量 昨年同月比 約10%減
3. 28年度売上数量 昨年対比 約10%増
4. 原因・現状 年度末に対しては公共工事が少なく碎石出荷が低迷した。

<生コン>

本大震災等で被害を受けた道路、建物、港湾等復旧・復興工事が主たる要因。出荷数量の内訳は、民需が対前年同月比96.2%、官公需が99.2%であった。

○民需の動向

対前年同月比：3.8%の減

対前年同月比増加地区

<県北地区> 5.9%の増 福島駅前ホテル新築工事、仲間町集合住宅新築工事等

<白河地区> 18.8%の増 化学工場、太陽光発電所、店舗工事等

<相双地区> 1.4%の増 電力会社社員寮、物流センター建設工事、原発保安対策工事等

<会津地区> 47.1%の増 信用金庫支店、老人福祉施設建設工事等

対前年同月比減少地区

<県中地区> 8.6%の減 香久山病院建設、工場、マンション工事等

<いわき地区> 30.5%の減 工事、物流センター、マンション新築工事等

○官公需の動向

対年同月比：0.8%の減

対前年同月比増加地区

<いわき地区> 48.2%の増 港湾災害復旧、小名浜東港関連工事等

<相双地区> 0.1%の増 減容化施設、廃棄物処理施設整備工事、トンネル工事等

対前年同月比減少地区

<県北地区> 16.8%の減 庄司淵・腰巡トンネル、県警本部庁舎、医療科学センターD棟建設工事等

<県中地区> 39.5%の減 復興公営住宅、医療機器安全評価センター建築工事等

<白河地区> 24.4%の減 白河市民文化会館、石川町役場新築工事等

<会津地区> 10.9%の減 復興公営住宅、高校改修工事、橋梁工事等

鉄鋼・金属・一般機械製造業

<鉄工>

(県中地区)

鉄工加工、製缶、機械加工全体的に低調であった。

<各種プラント機器>

当組合のプラント設備関連業界は、売上が前月比で15%の増、前年度月比においても25%増と今月も良好な状況を維持した。累計でも前年比12%の増となり、好転傾向で本年度を締めくくることができた。来年度も新年度予算等に基づく補修工事や新規設備等に期待したい。

<電子工業>

年度末の生産調整のため売上げ（注文）が増えた。

卸売業**<卸売業>**

（県中地区）

3月は役所や学校等公的機関が年度末ということもあり、事務機、文具類の動きが活発だった。また、建築資材の動きもますますであった。一方、食料品・日用品に関しては、特に目立った動きはなかった。人手不足感は業種を問わず恒常化しつつある。

<再生資源>

鉄スクラップ相場がやや好転してきているものの、依然厳しい状況が続いている。古紙は、年度末で発生量は増加したが、相場は下げ傾向で、国内メーカーの在庫がダブつき気味である。古紙市場は、製糸メーカーの今後の生産動向次第である。

小売業**<共同店舗>**

（県中地区のOショッピングセンター）

今月は、入学、進学、新生活の関連商品が売上好転につながった。しかし、必需品需要で依然として業況は厳しい感がぬぐえない。

（県中地区のNショッピングセンター）

売上げの低迷が問題化。

<石油>

元売仕切価格が上昇する中、県内平均小売価格は軟化傾向となっている。暖冬の影響により、冬場の灯油収益も減少した企業が多い中、一段と厳しい3月決算が危惧される。

<青果>

前月より続く雪不足の影響から、季節野菜が動かず取引に大きく影響した。野菜単価においては部分的に高騰があるくらいで例年通りとなった。春彼岸があり、花の取引は微増、しかし消費者の嗜好の変化から依然として量販店におされ、小売店では厳しい経営環境が続いている。

来月からは桜祭りやアフターDCも始まるので少しでも取引増加になるように期待したい。

<家電>

業界全体としては部分的に好転しているが、全体としてはやや低調。

商店街**<福島市>**

一日の寒暖の差・週間での気温の変化に左右されがちだが、月間を通してますますの賑わいがあった。しかし、送別会シーズンとしての週末の賑やかさや等が昔と比べ減少しているような感じがする。いつまでも

賑やかなのではなく、引けるのが早いと言うべきか。

4月はアフターDCや花見山観光などで賑わいがあつた。これを活性化にいかにつなげるか、再訪してもらえよう皆で努力しなければならない。

<郡山市>

3月の商店街来街者は増加したが、年度末での一年間としてはほぼ横ばいか多少微減かのような傾向であった。商店街のイベントの時、あるいは百貨店の集客のある催事の時に来街者は多いが、それ以外の平常時はなかなか伸びない。今、組合では車社会に合うように土日祝日の歩行者天国の有無を委員会で検討しているが、通行止めを解除したら商店街のとおりで年間20回近く開催している外部団体のイベントは少なくなると予想されるため、来街者はより少なくなるのではないかと考えられる。どのように落ち着いていくのかまだわからない。

<会津若松市>

3月は例年よりも暖かったが、寒暖の差が激しく、春物商品、冬物セール商品ともにまずまずの動きだった。3月6日の「子どもフェスタ」は知名度が上がり、来客数を確実に伸ばしている。これらのイベントを通し、個店の集客アップを目指したい。

<いわき市>

昨年は前々年の増税前の駆け込み需要の反動で売上げも落ち込んだが、今年はその前年をやっとクリアしているという状況。春らしくなって少しは商店街を歩く方も増えているが、店から仕掛けていかないと来店されないという声も聞く。物販が少なくなった商店街では「お買い物」という消費者の行動の選択肢としてなくなったのではないかと感じると同時に、個店がしっかりせねばと思うばかりである。

サービス業**<旅館業>**

（いわき湯本温泉）

今年度は、福島県アフターDC、そして、いわき市市制50周年を迎えることから、各種イベント等がこれからめじろおしに開催される予定である。県内外から多くの観光客が来て下さることに期待する。

<理容業>

天候にも恵まれまずまずの状況だった。各方部も大きな変化はなく例年通りとの報告だった。卒業式や就職の準備等もあり少し活気があった。これから暖くなるため少しは忙しくなると思われる。月末には入学の準備の子供客も増えた。

建設業**<建設業>**

（県一円）

震災から5年の節目を迎え、集中復興期間から復興・創生期間（5年間）へと新たなステージに移行したが、復興関連工事を除いた通常工事の事業規模は震災前より減少傾向にあり、会津、中、浜通りの地域間における事業量の偏りは鮮明になりつつある。

（県南地区）

除染業務は作業が完了した地区が多くなってきているが、新たな工区の着工により盛んに行われている。土木工事は減少が継続しているが、建築工事は民間の

工事新築・増築などが若干増加している。

<管工事>

前月比で給水、排水設備申請とも増加。前年同月累計対比で給水設備申請が増加し排水設備申請が減少している。

<専門工事>

5年目の3月11日がやってきた。福島では当たり前のように感じていたが、エリアから離れると認識のされ方が非常に違っていることに驚かされた。一方で、エリア外から見ると『被災者』としての我々の意識が『一般的』なものとずれていることにも気づかされた。今更ながらに『過剰』で『不要』な公共事業を唱えるメディアにはうんざりだが、私たちが必要としているものをもっとはっきり、もっとしっかり表現することも必要なのではないだろうか？業務全体は平穏に、そして僅かながらに下り坂の感がある。年初の株価のよ

うにいつ暴風と化すのかが非常に恐ろしい。技術者の高齢化、若手の不足、外国人技能実習生の受け入れ等、対応しなければならぬ問題が立ちだかる中、時間だけは徐々に過ぎて行ってしまう。段取りを意識して、取りこぼし無く、着実に事を進められるように意識を引き締めて行くことが、この新年度の始まりに必要なことだと感じている。

運輸業

<トラック運送>

(県北地区)

売上は横ばいで推移しているが、燃料価格は上昇傾向にあり収益も減少する見通しである。

<ハイヤータクシー>

動きが少なく厳しい状況である。